

「ダビデ王とイエスの先祖になったルツ」

ルツ記3章～4章
～ルツの生涯（2）～

はじめに

聖書には、女性の名がつけられた書が二つあります。ルツ記とエステル記です。今回は、ルツ記から、ルツの生涯を2回に分けて学びましょう。

ルツ記が教えているのは、「神の摂理」です。「神の摂理」とは「神の備え、守り、導き」です。時代は、さばきつかさが治めていたころ、紀元前1150年ころの事です。ユダヤのベツレヘムに住むエリメレクが飢饉のため妻のナオミと息子のマフロンとキルヨン連れてモアブの地に避難しました。マフロンとキルヨンモアブの女ルツとオルパと結婚し、10年を過ごしますが、ナオミの夫と息子たちは死に、ナオミはベツレヘムに帰ることにしました。嫁のルツはナオミを離れずにベツレヘムまでついてきました。今回は、困難の中に「神の備えと守りと導き」を学びます。

今朝は、3章と4章から、姑ナオミと一緒にベツレヘムに戻ったルツが、ボアズと結婚したところを学びます。

1 私におっしゃることはみないたします（3:5）。

ルツは、モアブの女でしたが、ナオミの息子マフロンと結婚しました。が、子どもが生まれないうちに、夫と死別。姑のナオミについて、ナオミの故郷ベツレヘムに来ました。ルツは、落ち穂拾いをしてナオミの生計を助けます。

(1) ナオミの配慮。

ナオミは、ルツのことを心配し、親戚の有力者ボアズと結婚できないかと考えるのです（1-2）。

適用：嫁と姑の問題は、古くから語られて来ましたが、姑につらい思いをさせられた人は、それと同じことをして嫁を虐めます。しかし、姑に良くしてもらった人は、自分が姑になった時、嫁に良くしてあげます。

数枝は、うちの3人の嫁さんたちに、とても良くし、彼女たちもたいへん数枝をしたっています。私の母も数枝をかわいがり、良くしてくれました。

(2) ルツの従順。

ナオミは、ボアズがルツに親切にしたことを聞いていたので、もっと積極的にボアズに近づく方法を考えました。

それは、ルツにボアズとの結婚の意志表示をさせることでした。それは、ルツにとってはとても勇気のいることでした。しかし、ルツは従順でした。「私におっしゃることはみないたします」。「あの方はあなたのですべきことを教えてください」というナオミのことばを疑いませんでした。

ルツは、「しゅうとめが命じたすべてのことをした」(3:6)のです。

適用：信仰と従順は、切り離せないものです。信じるから従います。従う時に、道が開かれるのです。

(3) ボアズの指示とルツの信仰(3:7-18)。

ボアズは、夜中に自分の足下に女が寝ているのを知ってビックリしました。ルツは、「あなたのおおいを広げて、このはしためをおおってください。あなたは買い戻しの権利のある親類ですから」と、求婚します(9)。

すると、ボアズは、ルツに主の祝福を祈ります。そして、ルツの真実な生き方を認め、「あなたの望むことはみな、してあげましょう。この町の人々はみな、あなたがしっかりした女であることを知っているからです」と言います。

(11)

適用：ここでも、日頃の生活の大切さが分かります。人に信用されているかどうかによって、困ったときに助けてもらえるかどうかが決まります。

ルツは、真実に生きてきました。彼女がしっかりした女であることを町中の人々が知っていたのです。

さがみのキリスト教会の将来は、私たちの日頃の生活にかかっています。「あの人が行っている教会なら、行ってみたい」となるのです。「あの人が行っているなら、行きたくない」では、いくら伝道しても人が教会に来ることはないでしょう。

私が川崎と横浜で伝道して、多少とも成功したとすれば、それはごく近所の人たちが救われていったことです。川崎では、町内会長さん夫妻も救われました。歩いて5分以内の人が何人もいました。横浜でも同じでした。教会員の70パーセントが歩いて教会に来れる人々でした。

ボアズとルツの結婚には、何の障害もなかったのでしょうか。大きな障害がありました。それはルツを買い戻す権利のある人が他にもいたのです。その人は、ボアズよりも「もっと近い買い戻しの権利のある親類」でした。ボアズは、その事実を正直にルツに告げ、もしその人に買い戻しの意志がないなら、自分が買い戻すと告げました。そして最後に「主は生きておられる」とルツを励ましたのでした。

ルツがナオミの所に戻って、一部始終を話すと、ナオミは、「このことがどうおさまるかわかるまで待ちなさい」と言いました。

適用：決して事は急いではいけません。クリスチャンは、祈って神様の解決を待つのです。自分から強引に事を進めようとするとう失敗します。「待つ」ことです（ゲヤ30:18 詩篇37:5 7）。

2 ボアズが畑とルツを買い戻す（4:1-22）。

（1）一つの困難とその解決（3:12 4:1-6）。

ボアズは、謀略を練ることもなく、正当な手段でエリメレクの畑の買い取りを、町の長老たちの前で、買い戻しの権利のある人に持ちかけました。その人は「買いましょう」と一度は言いますが、モアブの女も一緒に買うことが条件だと知ると、手を引きました。

（2）ボアズがルツを買い戻し、妻とする（9-12）

そこでボアズがその畑とルツを買い戻し、ルツを妻に迎えました。

適用：ここに「買い戻し」が出てきますが、私たちにもそれが適用されています。コリント人への手紙第一6章20節に「あなたがたは、代価を払って買い取られたのです」とあります。それは、神様が御子イエス・キリストという代価を払って私たちをご自分のものとして「買い戻した」という意味です。イエス・キリストの十字架は、神様が払ってくださった代価です。

（3）子の誕生とその子孫（13-22）

ボアズとルツに男の子が生まれました。近所の女たちはナオミを祝福し、その子に「オベデ」という名を付けました。そして、オベデにエッサイが生まれ、エッサイにダビデが生まれるのです。何と、ルツはダビデ王のひいおばあさんということになります。モアブの女に生まれたルツにとって考えられないことでしたでしょう。これも、モアブにやってきたナオミの長男マフロンに見初められ、夫との死別後もナオミについて来た結果でした。

適用：さらに聖書は驚くべきことを伝えているのです。神の御子イエス・キリストは、このダビデの子孫としてお生まれになったと（マタイ1:5-16）。

結論

ルツの生涯の後半を学びました。ルツは、異教のモアブの女でしたが、マフロンと結婚することで、ナオミに出会い、夫に死別する不幸に会いましたが、ナオミの信仰を見て、真の神、主を知るようになり、幸せの道が開か

れていきました。ルツは、ただ主に従っただけですが、主が道を開いてくださったのです。

やがて神様は、ルツにボアズという夫を与えてくださいました。ボアズは、モアブの女であることを知りつつ、彼女のすばらしさを見逃さず、妻にすることを心に決めました。結婚までには困難がありましたが、焦ることなく、すべてを神様に委ね、神様の導きを待ちました。そして、神様は、問題を解決し、ボアズとルツは結ばれました。そして、この結婚から、ダビデ、そしてイエス様が生まれるのです。何と不思議な神様の導きでしょう。

ルツの生涯を通して教えられるのは、ルツの信仰のすばらしさもさることながら、まず何よりも知らなくてはならないのは、ルツを選んだ神様の選びです。神様の永遠のご計画を全うするために、神様は異邦人の女性ルツをあえてお選びになりました。そして、ルツの生涯では「神の摂理」つまり、「神の備え、守り、導き」を教えてくださいました。

神様は、わたしたちをも選んでくださいました。私たちの人生にも様々な困難や試練があります。しかし、神を信じる者には常に「神の備えと守りと導き」があるのです。

神様は、信じる者を守り、導いてくださいます。

神様は、天地が造られる前から、私たちをキリストのうちに選び、神の子になるように決めてくださいました。イエス様は、私たちを愛し、私たちの身代わりとなり、私たちの罪を負って死んでくださいました。神様は、イエス様を死から生き返らせ、私たちの救い主としてくださいました。イエス様は、あなたの救い主です。

主はあなたを愛し、あなたを守ってくださいます。